

横浜市立 北綱島特別支援学校 令和3年度版 中期学校経営方針 (令和元～3年度)

学校教育目標	「児童生徒一人ひとりの個に応じた教育を行い、共生社会の一員としていきいき楽しく生活できる力を育みます。」				
	○子どもの主体的な学びを大切に、自己選択・自己決定できる力を養います。(知) ○子どもの自然や人とふれあう経験を大切に、豊かな感性や自己表現力を養います。(徳) ○子どもの健康・安全を大切に、自らが健康で安全に過ごすために生活力を養います。(体) ○子どもの社会での共生を大切に、周りの人々と関わるコミュニケーション力を養います。(公・開)				
学校概要	創立36周年	学校長 須藤 明	副校長 新津 孝明	2 学期制	幼児・児童・生徒数 67 人
	幼稚園部: 0	小学部: 28	中学部: 16	高等部本科: 15	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己選択・自己決定できる力</li> <li>豊かな感性と自己表現力</li> <li>健康で安全に過ごすための生活力</li> <li>人と関わるためのコミュニケーション力</li> </ul>

「(12)年間で育てる子ども像」と具体的取組
様々な体験を積み、知識や気づきの豊かな子ども／自己表現力を高め、他者との関係を築く子ども／生き生きと楽しく生活できる子ども／人とのふれあいを大切に子ども
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの人権を尊重し、子どもたちが主体となる教育活動を実施する。</li> <li>学校と家庭、地域、関係機関との協力、連携に取り組む。</li> <li>子どもたちが健康で安全に学習活動が出来るように、保健計画、医療的ケア、防災計画を実施する。</li> <li>教職員の専門性向上に取り組む。</li> </ul>

中期取組目標	○学校教育目標を実現するために、活力と魅力あふれる学校づくりを目指します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画に基づいて一人ひとりが学習の楽しさが実感できる授業を目指して常に授業改善を進めます。</li> <li>児童生徒が健康で安全に学習活動ができ、保護者が安心して教育を託せるように取り組んでいきます。</li> <li>家庭や地域、関係機関を協力や連携をして、社会的要請に積極的に応える取り組みを進めます。</li> <li>教職員が相互に高め合って専門性を発揮し、学校運営組織を確立して機能させる取り組みを進めます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①新教育課程編成に向け類型化に伴う授業の工夫や類型別目標についての研究を重ねる。②本校作成「自立活動マトリックス」に基づき、さまざまな授業形態の中で児童生徒の目標に合わせた取組を実践し、評価する。③学部会や校内研究会で児童生徒について教員間共有の機会を充実させる。
担当 研究研修部・教育課程検討部・教務部	
豊かな心	①人権教育及び道徳教育の全体構想図に基づき、児童生徒の自己肯定感を育て、自己選択・自己決定する力や道徳的価値を深めようとする力を育む授業づくりに取り組む。②隣接小との交流及び共同学習において、相互理解が深まるような活動を計画、実践する。③副学籍による交流や地域との交流で、多くの人とふれあい、地域との関わりを深める取組を行う。
担当 人権教育推進部・道徳・交流教育部	
健やかな体	①毎朝の体温計測や顔色・呼吸の状態などの健康観察、必要時のバイタルチェックなどを行い、児童生徒一人ひとりの体調管理に努める。②教室環境整備や疾病予防、感染症予防など子どもの健康や衛生に関するルールを作る。③食育の授業を取り入れ、児童生徒の食への関心・意欲、感受受容の力を育てる取組を行う。
担当 保健・給食部	
教育環境の整備	①iPad等支援機器を充実させ、ICT教育を推進するよう努める。②教室・廊下・特別教室などの環境を整え、教育の推進を支える。③学生や地域の人材等の外部ボランティアを活用した柔軟な支援体制を整備する。
担当 情報教育部・事務管理部・地域活動支援部	
センター的機能の取組	①障害のある児童生徒及び家族が地域で安心して生活できるよう関係機関と連携して、校内支援体制を充実させる。②本校ができる小中学校支援方法を周知し、センター的機能の広報活動を推進、地域における小中学校の支援を充実させる。
担当 地域活動支援部・特別支援教育CO	
医療的ケアの充実	①安全で安心な医療的ケアを実施するため、研修や必要に応じた実技研修を行い、手技の向上に努める。②医療的ケアの具体的な実施内容について課題を検討し、職員全体で共通理解を図る。また、保護者への説明会を実施し、共通理解を図ると共に、保護者間の情報交換の場を提供する。
担当 医療的ケア検討部	
キャリア教育と進路支援	①本校「キャリア教育の流れ」に基づき、自立と社会参加を目指した教育を展開する。②生徒と保護者が卒業後の進路に向け見通しをもち、実習、進路決定に向け連携した取り組みを実施する。③進路に関する情報を的確に捉え、保護者と職員へ伝えるための資料作りや情報発信を行う。
担当 教育課程検討部・進路教育相談部	
安全管理	①様々な緊急事態を想定した訓練を計画・実施し、適宜内容の見直しを行いながら、全職員が適切で迅速に対応できるよう共通理解を図る。②災害時の対応を保護者と共有し、連携した取組を実施する。③「登下校中の非常災害時対応」「スクールバス非常時対応マニュアル」に基づき、職員・保護者・バス乗務員で共通理解を図り、有事の際の迅速な対応に努める。
担当 防犯・防災部・スクールバス部	
いじめへの対応	①学校生活の中で児童生徒が自己肯定感を高められるように、周りの人の思いを受け入れ、自分の感情を表出できるような教育活動を展開する。②家庭訪問、個別面談を通して、学級、学部全職員が児童生徒を共通理解し、保護者との連携をとる。③いじめ防止研修や児童生徒理解研修などを継続的に実施する。
担当 人権教育推進部・いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教員の学習指導力向上に資するよう、他者の研究授業や協議会への参加を促進するよう努める。②肢体不自由教育の専門性を向上させるための研究・研修を充実を図る。③校務分掌や各種会議の在り方を見直し、効率的かつ効果的な運用を図るよう努める。
担当 教務部・研究・研修部	



横浜市立 北綱島特別支援学校 学校評価報告書 (令和元～3年度)

重点取組分野	令和元年度		総括	重点取組分野	令和2年度		総括	重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①新教育課程編成に向け類型化に伴う授業の工夫や類型別目標についての研究を重ねる。②本校作成「自立活動マトリックス」に基づき、さまざまな授業形態の中で児童生徒の目標に合わせた取組を実践し、評価する。③学部会や校内研究会で児童生徒について教員間共有の機会を充実させる。	①多様化する児童生徒の実態に対応した授業づくりの研究に取り組んだ。今後、目標設定と授業実践へつなげることとなる。②「自立活動マトリックス」から教科的視点の理解へと方向性の確認をした。③学部で児童生徒への指導に関しての共有できた。今後も多角的に成長に向けての支援を考えていきたい。	A	生きてはたらく知	①多様化する児童生徒の実態に対応した教育課程の編成及び授業の工夫に取り組む。②カリキュラム・マネジメント要領に基づき、教科的視点・自立活動の両方の側面から、さまざまな授業形態の中で児童生徒の目標に合わせた取組を職員に意識付けされた。③学級単位で児童生徒の様子を共有し、支援を検討した。	①下校時刻を15時に変更し、小・中学部で3つの類型の学習計画を運用した。教科・領域を合わせた指導の在り方を研究した。②指導案にカリ・マネ要領に基づいた教科的視点を取り入れた。授業に教科的視点をもつことが職員に意識付けされた。③学級単位で児童生徒の様子を共有し、支援を検討した。	A	生きてはたらく知	①多様化する児童生徒の実態に対応した教育課程の編成及び授業の工夫に取り組む。②カリキュラム・マネジメント要領に基づき、教科的視点・自立活動の両方の側面から、さまざまな授業形態の中で児童生徒の目標に合わせた取組を実践し、評価する。③学部会や校内研究会で児童生徒について教員間共有の機会を充実させる。		
豊かな心	①人権教育及び道徳教育の全体構想図に基づき、児童生徒の自己肯定感を育て、自己選択・自己決定する力や道徳的価値を深めようとする力を育む授業づくりに取り組む。②隣接小との交流及び共同学習において、相互理解が深まるような活動を計画、実践する。③副学級による交流や地域との交流で、多くの人とふれあい、地域との関わりを深める取組を行う。	①領域の指導案に道徳の視点を盛り込んだ。次年度から道徳の時間を設け、授業作りに取り組む。人権教育としての具体的な実践についての研究を行った。②1年間同じクラスと交流を行うようにし、交流が深まった。③年度末に副学級による交流の様子を全教員で共有するようになった。	B	豊かな心	①人権教育及び道徳教育の全体構想図に基づき、児童生徒の自己選択・自己決定する力や、道徳的価値に気づく力を育む授業づくり及び具体的な行動実践に努める。②隣接小との交流及び共同学習において、相互理解が深まる活動を計画、実践する。③副学級による交流や地域との交流で、人との関わりを深める取組を行う。	①児童生徒の自己選択・自己決定する力の育成に向け、主体的に取り組める教材や授業展開に努めた。道徳の時間を設定し、年間計画を作成した。②③感染防止のため、対面での交流を行えず、相互理解は難しかったが、隣接校とビデオ交流を行い、少しでも相手を意識できるように配慮した。	B	豊かな心	①人権教育及び道徳教育の全体構想図に基づき、児童生徒の自己選択・自己決定する力や、道徳的価値に気づく力を育む授業づくり及び具体的な行動実践に努める。②隣接小との交流及び共同学習において、相互理解が深まる活動を計画、実践する。③副学級による交流や地域との交流で、人との関わりを深める取組を行う。		
健やかな体	①毎朝の体温計測や顔色・呼吸の状態などの健康観察。必要時のバイタルチェックなどを行い、児童生徒一人ひとりの体調管理に努める。②教室環境整備や疾病予防、感染症予防など子どもの健康や衛生に関するルールを作る。③食育の授業を取り入れ、児童生徒の食への関心・意欲、感覚受容の力を育てる取組を行う。	①年度当初、適切な実態把握ができず十分な体調管理がしにくいのが課題。保護者との連携が必要。多様化する実態にも対応できるように努めていく。③トウモロコシの皮むき体験等、旬の野菜の匂いや手触りを感じるとともに、食への関心・意欲を高めることができた。	B	健やかな体	①安心安全で健康的な学校生活を送るために、児童生徒の体調管理に努める。健康維持増進に関する研修を行う。②教室環境を整備し、事故防止に努める。職員間の情報共有、保護者との連携により、疾病及び感染症予防に努める。③食育の授業や給食週間の取り組みで、食への関心・意欲や感覚受容の力を育む。	①毎朝の体温計測や健康観察、バイタルチェック等に努めた。②教室環境改善、感染症対策に取り組んだ。登校時に加え給食後の検温を行い、いよいよ健康観察した。給食時、マスクに加えてゴーグルやフェイスシールドを活用したり、職員のエプロンを毎日洗濯した。③食育の授業は実施できず。	B	健やかな体	①安心安全で健康的な学校生活を送るために、児童生徒の体調管理に努める。健康維持増進に関する研修を行う。②教室環境を整備し、事故防止に努める。職員間の情報共有、保護者との連携により、疾病及び感染症予防に努める。③食育の授業や給食週間の取り組みで、食への関心・意欲や感覚受容の力を育む。		
教育環境の整備	①iPad等支援機器を充実させ、ICT教育を推進するよう努める。②教室・廊下・特別教室などの環境を整え、教育の推進を支える。③学生や地域の人材等の外部ボランティアを活用した柔軟な支援体制を整備する。	①iPadの容量を確認し、常に使用しやすい環境の整備に努めた。サーバーの不具合に対し、調査、改善に努めた。②屋上等大型修繕、空気清浄機導入、自動ドアやELVの点検などに努めた。③学生や地域の方に学校ボランティアとしてフルや行事で活動してもらい支援体制の充実を図る事ができた。	A	教育環境の整備	①iPad等支援機器を充実させ、ICT教育を推進するよう努める。②教室・廊下・特別教室などの環境を整え、教育の推進を支える。③地域の人材等の外部ボランティアを活用した柔軟な支援体制を整備する。	①昨年度の人権教育の実践研究を継続し、児童生徒の自己選択・自己決定のための具体的取組を明示し、実践に活かした。道・BH25徳科の授業づくりを始めた。②③感染防止のため、対面での交流を行えず、相互理解は難しかったが、隣接校とビデオ交流を行い、少しでも相手を意識できるように配慮した。	A	教育環境の整備	①iPad等支援機器を充実させ、ICT教育を推進するよう努める。②教室・廊下・特別教室などの環境を整え、教育の推進を支える。③地域の人材等の外部ボランティアを活用した柔軟な支援体制を整備する。		
センター的機能の取組	①障害のある児童生徒及び家族が地域で安心して生活できるよう関係機関と連携して、校内支援体制を充実させる。②本校ができる小中学校支援方法を周知し、センター的機能の広報活動を推進、地域における小中学校の支援を充実させる。	①関係機関向け学校見学会を企画。児童生徒の関係機関と随時連携を取りながら校内支援体制の充実を図る事ができた。②夏季休業中にポッチャ研学会を行い、近隣の小中学校職員や地域の人々に本校について広く周知する事ができた。小中学校支援の充実も図ることができた。	B	センター的機能の取組	①障害のある児童生徒及び家族が地域で安心して生活できるよう関係機関と連携して、校内支援体制を充実させる。②本校ができる小中学校支援方法を周知し、センター的機能の広報活動を推進、地域における小中学校の支援を充実させる。	①関係機関向け学校見学会を秋以降に実施し、児童生徒の関係機関と随時連携を取りながら校内支援体制の充実を図る事ができた。②今年度は感染防止のため、ポッチャ体験会は実施せず。今後もいろいろな活動で本校を知ってもらうとともに、近隣小中学校へのセンター的機能を生かしていく。	B	センター的機能の取組	①障害のある児童生徒及び家族が地域で安心して生活できるよう関係機関と連携して、校内支援体制を充実させる。②本校ができる小中学校支援方法を周知し、センター的機能の広報活動を推進、地域における小中学校の支援を充実させる。		
医療的ケアの充実	①安全で安心な医療的ケアを実施するため、研修や必要に応じた実技研修を行い、手技の向上に努める。②医療的ケアの具体的な実施内容について課題を検討し、職員全体で共通理解を図る。また、保護者への説明会を実施し、共通理解を図ると共に、保護者間の情報交換の場を提供する。	①薬注入等の実技、模型による気管切開部、胃ろう部等の構造を知る研修を行った。実際の場面で、子どもの気持ちを考えた医療的ケアを実施できるよう研修した。②医療的ケア実施に関して、様々な立場からの声を受け検討を行い、職員全体で確認した。保護者同士が情報交換する場の設定を進めた。	A	医療的ケアの充実	①安全で安心な医療的ケアを実施するため、実技研修等を行い、手技の向上と共に、子どもの気持ちを意識した医療的ケアの実施に努める。②学校における医療的ケア実施の課題を検討し、職員全体で共通理解を図る。また、保護者説明会を実施し、保護者との懇談の場や保護者同士の情報交換の場を設定する。	①看護師が計画し、教員への実地研修や手技の確認を実施できた。教員は、子どもが安心して医療を受けられるよう状態把握や声かけなどにも努めた。②説明会の一部を懇談会とし、保護者より情報を受けて、学校に向けての手順、物品等の見直しを進めた。今後も保護者同士が情報交換する場とする。	A	医療的ケアの充実	①安全で安心な医療的ケアを実施するため、実技研修等を行い、手技の向上と共に、子どもの気持ちを意識した医療的ケアの実施に努める。②学校における医療的ケア実施の課題を検討し、職員全体で共通理解を図る。また、学校と保護者の懇談の場や保護者同士の情報交換の場として医療的ケア保護者懇談会を開催する。		
キャリア教育と進路支援	①本校「キャリア教育の流れ」に基づき、自立と社会参加を目指した教育を展開する。②生徒と保護者が卒業後の進路に向け見通しをもち、実習、進路決定に向け連携した取り組みを実施する。③進路に関する情報を的確に捉え、保護者や職員へ伝えるための資料作りや情報発信を行う。	①授業計画に「キャリア教育の流れ」を活用。職員間で共通理解されている。②中・高在学中に進路実習を行い、進路決定に向け保護者と連携した取り組みを実施した。早期より保護者や本人が卒業に対する意識を持つことが大切。③全学部での進路説明会を実施。進路情報や実習内容を保護者へ伝えた。	A	キャリア教育と進路支援	①本校「キャリア教育の流れ」に基づき、自立と社会参加を目指した教育を展開する。②生徒と保護者が卒業後の進路に向け見通しをもち、実習、進路決定に向け連携した取り組みを実施する。③進路に関する情報を的確に捉え、保護者や職員へ伝えるための資料作りや情報発信を行う。	①「キャリア教育の流れ」に基づき指導案に目標を記載しているが、教科的視点や道徳の視点も記入するようになり、意識が薄れてきたことが課題。②中・高等部で進路実習を行い、進路決定に向けて保護者と連携した。③各学部進路説明会を実施し、進路に対する意識を高めることができた。	A	キャリア教育と進路支援	①職員が共通理解の上で、「キャリア教育の流れ」に基づき、自立と社会参加を目指した教育を展開する。②生徒と保護者が卒業後の進路に向け見通しをもち、実習、進路決定に向け連携した取り組みを実施する。③進路に関する情報を的確に捉え、保護者や職員へ伝えるための資料作りや情報発信を行う。		
安全管理	①様々な緊急事態を想定した訓練を計画・実施し、適宜内容の見直しを行いながら、全職員が適切で迅速に対応できるよう共通理解を図る。②災害時の対応を保護者と共有し、連携した取組を実施する。③「登下校中の非常災害時対応」「スクールバス非常時対応マニュアル」に基づき、職員・保護者・バス乗務員で共通理解を図り、有事の際の迅速な対応に努める。	①避難訓練や不審者対応研修、救命救急研修など、様々な緊急事態を想定した訓練を計画、実施した。②非常食や学校置き物品について保護者と確認した。非常食体験を実施することができた。③マニュアルの見直しと改訂を行い、非常時の対応を職員、バス乗務員と確認、共有した。	B	安全管理	①様々な緊急事態を想定した訓練を実施し、全職員が適切で迅速に対応できるよう共通理解を図る。②災害時の対応について保護者と連携する。③「登下校中の非常災害時対応」「スクールバス非常時対応マニュアル」に基づき、職員・保護者・バス乗務員で共通理解を図り、有事の際の迅速な対応に努める。	①避難訓練(地震・火災)や不審者対応、救命救急等の研修を実施した。②必要な非常食や学校置き物品について保護者と確認できるようルールを作成した。③GPS端末が更新、通話機能が追加され、学校と乗務員との連絡を円滑に行えるようになった。今後、校内での確認フォーム等を整備していく。	B	安全管理	①様々な緊急事態を想定した訓練を実施し、全職員が適切で迅速に対応できるよう共通理解を図る。②災害時の対応について保護者と連携する。③「登下校中の非常災害時対応」「スクールバス非常時対応マニュアル」に基づき、職員・保護者・バス乗務員で共通理解を図り、有事の際の迅速な対応に努める。		
いじめへの対応	①学校生活の中で児童生徒が自己肯定感を高められるように、周りの人の思いを受け入れ、自分の感情を表出できるような教育活動を展開する。②家庭訪問、個別面談を通して、学級、学部全職員が児童生徒を共通理解し、保護者との連携をとる。③いじめ防止研修や児童生徒理解研修などを継続的に実施する。	①児童生徒の自己肯定感を高めるため、何をしたらよいかを話し合った。②保護者が得た情報を学級や学部で共有し、児童生徒の理解につなげた。③いじめ防止対策に沿って学級長会、定例会でいじめ防止に努めた。11月以降はいじめ以外の人間関係についても取り上げ、研修も企画した。	B	いじめへの対応	①学校生活の中で児童生徒が自己肯定感を高められるように、周りの人の思いを受け入れ、自分の感情を表出できるような教育活動を展開する。②家庭訪問、個別面談を通して、学級、学部全職員が児童生徒を共通理解し、保護者との連携をとる。③いじめ防止研修や児童生徒理解研修などを継続的に実施する。	①児童生徒の自己肯定感を高めるための方策を図示化し、実践に活かした。今後も継続する。②保護者の情報を学級や学部で共有。学校での様子を保護者に伝え、児童生徒の理解や保護者との連携につなげた。③昨年度の事件を受け、研修を継続的に実施した。次年度も、必要な研修を検討していく。	B	いじめへの対応	①学校生活の中で児童生徒が自己肯定感を高められるように、周りの人の思いを受け入れ、自分の感情を表出できるような教育活動を展開する。②家庭訪問、個別面談、日々の連絡帳を通して保護者との連携を図り、学級、学部職員で共有、共通理解する。③いじめ防止研修や児童生徒理解研修などを継続的に実施する。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教員の学習指導力向上に資するよう、他者の研究授業や協議会への参加を促進するよう努める。②肢体不自由教育の専門性を向上させるための研究、研修を充実させる。③校務分掌や各種会議の在り方を見直し、効率的かつ効果的な運用を図るよう努める。	①各学部の態勢を調整し、年次研究者の研究授業や協議会への積極的な参加を行うことができた。②さまざまな教育的ニーズの児童生徒に対応するための会議を設定するため、まずは分掌会議の業務の見直しを始めた。働き方改革プロジェクトを立ち上げ、会議運営がスムーズになる方策を提案した。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①教員の学習指導力向上に資するよう、他者の研究授業や協議会への参加を促進するよう努める。②肢体不自由教育の専門性を向上させるための研究、研修を充実させる。③校務分掌や各種会議の在り方を見直し、効率的かつ効果的な運用を図るよう努める。	①初任者を中心に年次研修者の研究授業や協議会への積極的な参加を促した。②感染防止のため、研修への運営が難しいところがあった。②今後はZOOM等も活用、会議環境を整える。③教科相談会の設置のため、各分掌の見直し・再編成を行った。効率的な業務遂行につながるが、次年度実践する。	B	人材育成・組織運営(働き方改革)	①教員の学習指導力向上に資するよう、他者の研究授業や協議会への参加を促進するよう努める。②肢体不自由教育の専門性を向上させるための研究、研修を充実させる。③校務分掌や各種会議の在り方を見直し、効率的かつ効果的な運用を図るよう努める。		
学校関係者評価	保護者及びまちとともに歩む懇話会の方々には概ね評価していただいている。子どもにあった教育内容の設定、体調管理、北綱島小学校との交流、ボランティア人材の活用、安全管理に関して、特に高い評価をいただいた。地域に開かれた学校として取り組みを進めているポッチャ体験会も、地域の方が本校を知るよい機会と捉える方が多い。しかし、特別支援教育コーディネーターの役割理解・適切な医療的ケア実施・災害への備え・進路支援・教員の専門性の向上に関しては、課題も指摘された。			学校関係者評価	今年度、まち懇委員による学校評価は実施できず。学校の現状および取り組みと成果について書面でお伝えした。保護者による評価では、適切な指導・評価、子どもにあった教育内容の設定、自己決定・自己選択する力の育成、体調管理、自立に向けた教育計画に関して、特に高い評価をいただいた。しかし、コロナの影響を受け、実践が伴わない部分については評価できておらず、来年度への宿題となる。また、特別支援教育コーディネーターの役割理解・適切な医療的ケア実施・災害への備え・教員の専門性の向上に関しては、昨年度に続き、課題が指摘された。			学校関係者評価			
評価結果に対する学校の見解	概ね目標達成していると考える。新教育課程編成にむけて、類型化に伴う授業の工夫や類型別目標について研究を重ねることにより、来年度から授業等実践し検証することができるようになった。また、領域の指導案に道徳の視点を盛り込んだ。来年度から道徳の時間を設け、授業作りに取り組むことで、検証を行うことができるようになった。また今回の事業をきっかけに、「いじめ防止対策」から「いじめ防止対策」へと枠を広げ、教職員にかかわる内容も盛り込むことで、学校全体でどんなときも、より人権を意識した行動がとれるようにしていきたい。			評価結果に対する学校の見解	概ね目標達成していると考える。新教育課程の運用で、下校時刻を15時に変更し、小・中学部で3つの類型の学習計画し、実施した。教科・領域を合わせた指導の在り方を研究して、職員に意識づけを行い効果をあげることができた。コロナ禍において、校内で感染症対策を行った。取り組みの成果もあり、最小限にとどめることができた。昨年度の事件から、「再発防止策」を策定し、教職員全員でしっかりと取り組むことができた。来年度に向けて、見直しをおこないながら、教職員として、学校全体でどんなときも、人権を意識した行動がとれるように今後もしていきたい。			評価結果に対する学校の見解			
中期取組目標振り返り	新しい教育課程の編成に向け、全職員参加のもと行えたことには大きな意義があると考えている。次年度は実際行っていく中で、検証するとともに、高等部の編成にも取り組む予定である。指導案の書式検討も行ったので、授業改善につながるかも検証したい。医療的ケアについては個別の案件に対応しつつ、安全に行えるかを検討し、進めている。防災等との関連も含め今後進めていきたい。今年度は大きな事業があったが、再発防止を進める中で、今一度、職場の環境や教職員の人権意識や専門性の向上を図り、安全で安心な教育環境づくりに努めていきたい。			中期取組目標振り返り	中期学校経営方針の具体的取組のほとんどは継続する。新教育課程の実践が小中学部において始まり、教科的視点を教員が意識できるようになったが、準ずる教育課程については、作成過程での課題があり、次年度の取組が期待される。高等部の教育課程の編成も進めていきたい。コロナ感染は、校内において最小限に抑えられたが、行事等の実践がほとんど行えなかった。コロナにどう向き合っていくか、次年度以降さらに考えていく必要があると考える。昨年度の事件に対する再発防止については、まだ取組半ばである。次年度以降も、教職員の人権意識を高める研修等、取組を継続する。			中期取組目標振り返り			